



Title	琉球王国接貢制度の研究：清代における「接貢」に関わる人々の往還の分析：家譜資料を中心に(Abstract_論文要旨)
Author(s)	富田, 千夏
Citation	
Issue Date	2014-09-30
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/29914
Rights	



様式第7号

学 位 論 文 要 旨

学位論文題目

琉球王国接貢制度の研究

清代における「接貢」に関わる人々の往還の分析—家譜資料を中心に—

琉球大学大学院
人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学生番号 078095C

氏 名 富田 千夏

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数800字程度）

本博士論文は、清代の中琉関係上の進貢制度を、接貢船を視点の基軸においた「船隻毎」の分析を通じて、渡唐役者の人員配置の特質や、下層乗務員（五主や船方）の琉中の往還の特徴からとらえ直すことを目的としている。

研究上の目的を達成するために、各船進貢船頭号船、進貢二号船、接貢船に共通して乗船する人員の構成の特徴を明らかにすることにより、進貢制度上の接貢船の位置づけを明確化し、各船の人員構成および人員の派遣前後の経歴、そして特にその年齢の分析を通し、清代において進貢および接貢制度がどのように琉球社会に関りながら運用されていたのか。その実例を挙げて解明を試みた。これまでの先行研究を踏まえ、本論においては「報酬としての渡唐」の視点では捉えきれない進貢制度の側面が「業務としての渡唐」を通して明らかになるのではないか、またこれまで同一視されがちであった進貢船および接貢船の機能についても、「船隻毎」の視点による分析により新たな面が明らかになるのではないか、それにより進貢制度上における接貢船の位置づけができるのではないかと認識に基づき論を進めてきた。そのため、渡唐を「報酬」という側面とは別に、あくまで「業務」としての視点で捉え直して考えた場合、円滑に渡唐派遣業務が進められるために、どのような運営がなされていたか、主に担当者の配置がどのように成されていたかという問題を解決することを目的とし、各役職経験者の職歴と年齢の分析を通して、各船隻に配置される人物がどのような特徴をもち、それが船隻毎にどのような傾向にあるかを明らかにすることを分析の主眼においた。在船都通事、存留通事、総管、それぞれの役職を各船隻毎で分析し、徹底的な年齢分析により、王府側が渡唐役の派遣においてどのような年齢層の人材を配していたのか、これまでの先行研究において議論されてきた「報酬」という視点の渡唐とは別に、「渡唐業務」を遂行する担当者として、配置される人員にはどのような要素が背景としてあったのか、その傾向について述べている。